

研究・調査プロジェクト報告

近年の各教団における宗門運動について

大 乗 文 晴

この調査は日蓮宗現代宗教研究所・現代教化学部部門・国内宗教研究ⅠおよびⅡプロジェクトチームの共同研究の成果を筆者個人の資格で取り纏めたものである。

はじめに

我々に与えられた課題は、我が宗門の「宗門運動」展開に資するための、他教団の「宗門運動」の調査であった。

しかし「宗門運動」という用語をインターネットにて検索してみると、我々が思っていた以上に極めて特殊な用語であるらしきことに気づかされた。

即ち、検索サイトにてヒットする上位情報は、殆どが日蓮宗関連の情報なのである。まず、この一点は注意しておかなければならない。何となれば、上記のような状況であるということは、我々が当たり前のように用いている「宗門運動」という語が、必ずしも我々の意図したとおりの意味では一般社会（他教団も含めた我が宗門以外）に通じていない、という可能性があることを示しているからである。

従って、日本国内の宗教団体（教団）における「宗門運動」という問題は、そもそも「厳密な意味では」成立し

ないかもしれない。

しからは所謂「宗門運動」とはどのように定義されるのか。

「日蓮宗宗憲」の第九条（第二章行学布教及び宗門運動）には、「本宗の宗門運動は、祖願達成のため異体同心をもつて行う。」とある。

これを他教団に当てはめるとするならば、

- ①（祖願達成）⇨教団の始祖、ないしキーパーソンが定めた宗教的目的を達成すること
 - ②（異体同心）⇨教団全体で一致団結してその為に行動すること
- という二つの要素が満たされている必要がある、ということになろう。

言うまでもなく、我が「宗門運動」は、現在の所「立正安国・お題目結縁運動」である。「現在の所」というのが、実は第三のポイントであり、即ち「日蓮宗規定」の中で明確に「運動の期間を区切っている」という点にも留意が必要である。

即ち「立正安国・お題目結縁運動規定」の第二条には「本運動は、平成十九年四月一日から平成三十四年三月三十一日まで行う」と、明示されているのである。

「祖願」であるから、目的達成までその運動は続く、として「宗門運動」を規定する姿勢も取り得るかと思われるが、我が宗門では御正當や遠忌に向けて特別なテーマを掲げて運動することが「宗門運動」として定義されて来ているのである。

そこで、その期間が終了したならば、総括なり反省なりということもしやすくなる効用があり、例えば、昭和六十（一九八五）年から平成十四（二〇〇二）年まで実施された「お題目総弘通運動」については、平成十六年に、現宗

研からも『お題目総弘通運動』総括のための全教師アンケート調査報告書」が刊行されたりなどしているが、こうした総括が次の運動の策定に際し、一般教師の実感を伴うような形で、十二分に活用されているとは言い難い面もあるように思われる。

ともあれ、右のような特徴を有する本宗の「宗門運動」に比して、他教団においてそれに類した運動があるのか、ある場合には、どのような内容であるのか、について、調査した結果が、資料編に掲げたものである。

ここでは「宗門運動」を、ある宗教団体・教団が特定の機会を切っ掛けにして、教団内の宗教的目的に向かって（或いは目的に沿って）キャンペーンを張ること、と置き換えて、位置づけてみた（その中には記念事業・建築事業なども含まれる）。

しかしながら、歴史の浅い教団、小規模な教団などは、通常の布教活動そのものが教団運動ともみなし得る場合があり、また、殊更に特別な活動をしていない場合もある。このあたりの整理は容易ならざるものがあり、資料編の報告は羅列的にならざるを得なかったが、膨大に存在する宗教団体から、主として既成仏教教団、仏教系新宗教教団を中心に、その教団の出版物やインターネットサイト上の情報などから抽出したものがこの資料である。

情報の偏り、正確度、深度など凡そ満足できる水準にはないが、「宗門運動」は、対社会的になされているものであろうから、こうした公開されている資料だけによる報告も、あながち無意味ではないものと考えられる。

なお、資料編は、平成二二年九月八〜九日に開催された第四三回「日蓮宗中央教化研究会議」において配布した資料の体裁を整えたものであるが、併せてご覧いただければ幸甚である。

A 日蓮系伝統教団

◎日蓮正宗

※平成一八年四月「立正安国論正義顕揚七五〇年記念局」設置。八木日照総監を委員長とし、以下の五か事業を執行した。

- ① 記念大法要並びに大結集総登山
- ② 地涌倍増大結集推進
- ③ 総本山総合整備事業
- ④ 記念出版事業
- ⑤ その他の事業

① 記念大法要並びに大結集総登山

●「立正安国論正義顕揚七五〇年記念五十万総登山」

(平成二二年一月一〇日～二二月二三日)

一月二八日に一月からの大石寺参詣者数が五〇万一九五五人に達し、目標の五十万人を超えた。海外信徒総登山は、五回に亘って開催され、海外から総本山に参詣した信徒は、二万人を超えた。

●平成二一年七月一五・一六日の両日、御法主日如小人猊下大導師の下、総本山大石寺において「立正安国論正義顕揚七五〇年記念大法要」奉修。御隠尊日顕上人ほか、八木総監、藤本日潤重役、各能化、土井崎慈成宗会議長、宗

務院各部の部長・副部長、佐藤慈暢大石寺主任理事を始め、約八二〇名の僧侶が出席。また柳沢喜惣次法華講総講頭、各大講頭、渡邊定元・井出光彦・土橋昌訓の各大石寺総代をはじめ、日本及び海外一五カ国からの信徒・寺族の代表三千四百十余名が参列した。

●平成二一年七月二六日、総本山大石寺において、「立正安国論正義顕揚七五〇年記念七万五千人大結集総会」を開催。七万八四二三名の僧俗が参加した。

・御命題達成とともに、新たななる広布の大出陣式となった大結集総会で、御法主上人猊下より賜った新たな御命題一、平成三三年宗祖日蓮大聖人御聖誕八〇〇年における八〇万法華講の達成

二、平成二七年日興上人御誕生七七〇年における法華講員五〇％増に向かって折伏に立ち上がり、前進することを決意する大総会となった。

②地涌倍増大結集推進

●全国三九カ所において「布教区別広布推進会」や「広布推進僧俗指導会」などが開催されて、折伏と大結集の推進が強力に計られるとともに、昨年（平成二〇年）は全国四会場で「地涌倍増大結集推進決起大会」が開催され、七万八千名の目標を上回る、八万四千三百余名が参加して、本年に向けての気運を高めた。↓平成二一年七月「立正安国論正義顕揚七五〇年記念七万五千人大結集総会」のプレ大会となる。

③総本山総合整備事業

●建立以来三七七年を経た「御影堂」の大改修工事が開始されたほか、世界中から登山参詣する信徒が安全かつ快適に過ごせるように「塔中の一八カ坊」が新築された。

④記念出版事業

●中文版および英訳の『立正安国論』と、英語版の『御書用語解説集』の出版、『御書教学辞典』の編纂も進められ

ている。

⑤その他の事業

●総本山宝物殿において「立正安国論正義顕揚七五〇年記念展」が開催され、地涌倍増大結集記念写真展「地涌倍増のあゆみ」、海外布教写真展「こころをひとつに」、立正安国論記念展「立正安国論と忍難弘通の歩み」の各展示会場には、五〇万総登山に参詣した多くの信徒が訪れた。

●日蓮大聖人御流^{ゑん}謫の地である佐渡塚原の場所を本宗が諸研究の成果をもとに確定し、同所に「佐渡塚原跡碑」と「題目碑」が建立された。

※経過と今後の目標

昭和五八年に前御法主日顕上人猥下より「大石寺開創七〇〇年に三万総会を」と命ぜられ、平成二年に四万一九〇〇名を以て慶祝できた。平成六年の地涌六万大総会、平成一〇年の十万総登山、平成一四年・宗旨建立七五〇年の六〇会にわたる三〇万総登山と、法華講の躍進が見られた。平成一四年、奉安堂落慶記念大法要の砌に『立正安国論』正義顕揚七五〇年を期して地涌倍増と大結集を、との命を受け、以後七年間にわたって各支部が指導教師と法華講員の力を合わせ、また昨年（平成二〇年）はプレ大会を大成功させ、本年（平成二二年）「立正安国論正義顕揚七五〇年記念七万五千人大結集総会」が七万八四二三名もの大結集を以て盛大に開催された。

これからの目標として、十二年後の平成三三年に宗祖大聖人御聖誕八〇〇年を迎え、中間に当たる平成二七年は日興上人御誕生七七〇年に当たる。この平成二七年までに確実な折伏の実践を以て現在の講員数の五〇％増を目指し、平成三三年の大慶事は法華講八〇万人の体制を達成し、大法公布に資していきたい旨を新たに命じられた。

◎法華宗（本門流）

①平成二十一年、宗門の記念法要を奉修

平成二十一年七月二日 場所…東京・新宿中野「獅子吼会」

『立正安国論』進覧七五〇年「誓願の集い」

テーマ〈立正から安国へ…菩薩行の実践〉

第一部 奉賛法要

第二部 講演『立正安国論』—大悲菩薩の誓願を拝して—

第三部 清興 法華和讃・古箏・和太鼓

②布教誌などにより『立正安国論』の意義について等、啓蒙運動の展開。

a 法華宗教化センター発行

・リーフレット「咲かそういのち」平成二十一年夏号

〈『立正安国論』による救済〉

・ポスター『立正安国論』進覧七五〇年 四種類

— 現代における『立正安国論』—

①親子問題 ②地球温暖化 ③人心荒廃 ④立正安国

b 布教誌「無上道」「法華宗信報」

平成一八年より二一年『立正安国論』の意義について

宗門各方面より寄稿

◎本門佛立宗

●平成二五年の門祖日隆聖人五五〇回御遠諱に向かう報恩ご奉公を展開中

「佛立菩薩を育てる運動」をスローガンに、「弘通の人作り」に取り組むことがテーマ。

弘通の拡大を目指すには人材育成が欠かせない、現在の「佛立菩薩を育てる運動」はその人材育成の対象を「新たな教務員（僧侶）の養成」、「新たな役員信徒（班長役中）の育成」、「宗義を学び、実践する信徒（正宗徒）の育成」の三つの角度から取り組む。

人作りは時間を要するので、短期間にどれほどの成果があるかは未知数だが、今回の報恩ご奉公がその端緒となつて「人を育てる宗門」への意識向上が計られ、未来の弘通を担う人材が一人でも多く誕生するよう進行中。

B 日蓮系新宗教団体

◎創価学会

二〇一〇年のテーマ「創価完勝・青年躍進の年」

万代にわたる学会の基盤を盤石に栄光の創立八〇周年を祝賀！

ともどもに青年の息吹で前進

栄光の学会創立八〇周年、池田名誉会長の会長就任五〇周年となる二〇一〇年は、広宣流布の拡大に完全勝利し、その意義深き佳節を祝賀する一年である。また、万代にわたる学会の基盤を盤石に構築しゆくため、広布後継の青年部・未来部の育成と拡大が極めて重要となる。そこで二〇一〇年はテーマを「創価完全勝利・青年躍進の年」と定め、威風堂々と前進する。

「八とは開く義なり」と仏法では説く。学会永遠の大勝利を開き、世界広布の揚々たる未来を開くため、八〇周年

を断じて勝利する。ゆえに、目指すは「創価完勝」である。「創価完勝」とは第一に、善なる民衆のスクラムを広げ、幸福と安穩の大成を築く―その広布拡大の完全勝利である。

そして第二には、一人一人が平和と人道の連帯を広げ、「目指せ！ 広布の一〇〇〇万」を合言葉に、師弟共戦の決意の上から、どう八〇周年を勝利して報恩の実証を打ち立てていくか―その一人一人にとっての「わたしの創立八〇周年運動」の完全勝利である。

御書には「一は万が母」（四九八ページ）とある。大切なのは「一人」であり「一対一」である。全同志が、師弟の精神を根本に、一人の人間革命から広宣流布を開くという学会の原点に立ち、一対一の励ましを基本として、満々たる学会精神で前進して参りたい。そのために、全リーダーが訪問・激励に徹しゆく「大座談会運動」を展開して参りたい。

そして、創価完勝を開く最大の原動力は「青年の躍進」である。とともに、あらゆる活動を、すべて「青年の躍進」へと結実させ、青年部を伸ばし、青年が躍動する学会をつくってまいりたい。各部一体で青年部・未来部を励まし、拡大し、育成するとともに、全同志が共々に青年の息吹をみなぎらせて戦い進んでいく。

学会の活動貴重である(1)折伏・弘教の推進、(2)聖教新聞の拡大、(3)地域友好活動、(4)未来後継の人材の育成を中心として、以下の諸活動をポイントに、信心を深めゆく教学運動にも一層力を入れて取り組み、教宣活動も着実に推進していく。

〔年間の活動〕二〇〇九年一月発表

〔わたしの創立八〇周年運動〕

自身の具体的な目標を決めて取り組んでいこう！

【目標例】

・自身の課題に勝利の実証
・一家和楽の信心

・折伏・弘教や聖教新聞の拡大に挑戦
・一〇人の学会理解者づくり

A 「創価完勝」へ広布の拡大

(1) ダイナミックに「仏縁」の拡大

◎創立八〇周年記念のパネル展示や支部ライブラリー（DVD）、

パンフ「SOKA」などを活用し、全員が学会理解者づくりを推進

◎特に青年層への着実な折伏・弘教を推進

(2) 全国に幸福を広げる「聖教の拡大」

◎地区の年間目標を設定し、地域のみならず全国に学会理解者を

拡大

◎「聖教拡大は人材の拡大」を合言葉に活動者増に挑戦

(3) 「大座談会運動」を展開し、内外の参加者を拡大

◎具体的に日程を決め、徹底した法門・激励を推進

B 「青年躍進」こそ新時代を開く力

(1) 青年部三〇〇万「大拡大運動」で内外に波動

◎「大座談会運動」「青年部幹部会」を軸に青年部が総決起

◎青年層へ「三〇〇万の平和の連帯」を拡大

◎会長就任五〇周年の「五・三」を最大の陣列で荘厳

(2) 後継の未来部育成に総力

◎ 「未来部改革」を推進し、各部一体で「未来の宝」を育成

◎ 家族とともに青年部幹部会、座談会に参加

(3) 信心深き新しい人材を育成

◎ 「新会員講座」の実施や、ともに活動する中で新しい人材を育成

◎ 「教授登用教学講座」「教学部任用試験」「青年部教学試験一級」等

の教学運動を通し、信心を深化

C 信頼広げる地域貢献活動を推進

◎ 幹部率先で地域行事への参加、貢献活動を積極的に展開

◎ 「地域友好デー」「地域友好週間」等を設け、地域に友好を拡大

◎ 霊友会・大形派（大形市太郎）

※現在、霊友会は大形市太郎率いる大形派と、松本廣率いる松本派（Inner Trip REIYUKAI International）の二団体に分裂している。また創始者・故・久保角太郎の子息であり、かつて霊友会会長（後に理事長）であった久保継成は霊友会を離れ「在家仏教こころの会」を組織している。

・人に尽くす、社会に尽くす「おもいやり連鎖運動」

戦前・戦後の活動

霊友会の創立者、久保角太郎・小谷喜美両恩師は、「宗教の本鹿は社会事業にある。困っている人、苦しんでいる人々を救っていかねばならない。自分たちだけ幸せで自分たちだけが満足するということは信仰ではない」と、先祖の供養をし、自分の運命を切り拓く霊友会の教えを確立されました。そして同時に、自ら街頭に立ち募金活動を

行うなど、数々の社会事業を興し、人に社会に尽くされました。

両恩師の願いは、人に社会に尽くすこと——。その両恩師の思いを実現するために、平成二〇年「創立祭二〇〇八」から、霊友会は「おもいやり連鎖運動」を始めました。

これからの活動「思いやり連鎖運動」（社会貢献活動）

全国の児童相談所が対応した児童虐待が二〇〇七年度、初めて過去最多の四万件を超えました。さまざまな事情で生きたことさえ困難になっている子どもたち、お年寄り、障がいのある人たちがたくさんいます。親と子の関係、人と人との関係を取り戻すために、私たちは「おもいやり連鎖運動」（社会貢献活動）を展開し、さまざまな活動に取り組んでいます。

個人で起こす活動（五メートルからのおもいやり）

人を思いやる気持ちを広げていく活動

電車の中でお年寄りに席を譲ったり、困っている人がいたら声をかけたり……。あなたにできることは目の前にたくさんあります。「五メートルからのおもいやり」は、五メートルという言葉に象徴されるように、身近なところから人を思う気持ちを広げていく運動です。

地域で行う活動

① ところほつとサロン（総称）

子育て中のお父さん・お母さんを支援。核家族化が進み、近所づきあいが減った今、子育て中の若い夫婦がつらいとき、困ったときに話を聞いてくれる人がいないという状況が増えています。そんなとき、相談できる身近な場作りを各地で行っています。

② 勉強会・セミナーの開催

社会の変化の中で、子供や親たちがどんな状況に置かれているのか。児童養護施設・保育園・幼稚園などで働いている人や、子育て支援をしているNPO法人の人を講師に招いて勉強会を開催しています。

③ コミュニケーションボランティア活動

乳児院や児童養護施設の八割は、国や県からの援助も減少し、先生を増やせない状況にあります。そのような施設で、子供たちと一緒に遊んだり話したりするコミュニケーションボランティアで先生をサポートします。

④ 子どもたちの情感を育む活動

おじいさん、おばあさん、聞かせてよ、人生という宝物。

おじいさん、おばあさんの生い立ちや、どんな風に生きたいと思ってきたのか、つらかったこと、楽しかったことを子どもたちが聞いて、話し合い、作文や紙芝居などにします。子どもたちの心の力を育んでいくことを目的に行っています。

⑤ 各地域で独自に取り組む活動

使用済み切手・テレホンカード等の収集、アルミ缶・プルトップなどの回収、書き損じはがきの収集、車椅子の寄贈や福祉団体への寄付、そのほかにも、すでに各地域で様々な活動が行われています。その活動を広げ、全国に発表していきます。

認知症サポーター隊の結成、「平城遷都一三〇〇年」をもてなしボランティアで支える、授産品販売協力・地域の授産施設との交流を深める、ヤングミセスのつどい「ママさんサークル」（大阪府）、「こころフォーラム in 兵庫」等

青年の弥勒山セミナー・明日の日本を創る学生会議「訪華研修」・日墨青年文化交流・壮年弥勒山のつどい・在家のつどい

妙一会活動

霊友会の「妙一会」は、会員の子弟（四歳～小学校六年生）とその父母が中心になって活動しています。

この「妙一会」という名称は、小谷喜美恩師（初代会長）が久保角太郎恩師（創立者）からいただいた法号（名前の『妙一』）にちなんで命名されました。日本一の立派な子どもたちになるように、という小谷恩師の願いが込められた「妙一会」は、昭和三四年に発足しました。

「七つのこころえ」と「オアシス運動」の実行を通じて、良き習慣を身につけ、人にやさしくできる、思いやりの心をもてる子どもになろう、と呼びかけています。

釈迦殿妙一会お花まつり

妙一会どんなもんだいコンクール

霊友会の福祉活動

霊友会法友文庫点字図書館・ものづくり手工芸（ろうけつ染め・革細工・袋もの縫製）

手話・収集・整理活動・はるかぜボランティアセンター

C 伝統仏教教団

◎天台宗

一隅を照らす運動 <<http://ichigunet/digest/text.htm>>

「たすけあい共に輝く生命がある」

■一隅を照らす運動とは

「一隅を照らす運動」は、信仰と実践によって一人ひとりが心豊かな人間になり、平和で明るい世の中を共に築い

ていこうという社会啓発運動です。「一隅を照らす、これすなわち国宝なり」という、天台宗を開かれた伝教大師最澄さま（七六七〜八二二）の精神を現代に生かすために生まれました。

一隅とは、今、あなたがいる、その場所です。あなたが、あなたの置かれている場所や立場で、ベストを尽くして照らして下さい。あなたが光れば、あなたのお隣も光ります。町や社会が光ります。小さな光が集まって、日本を、世界を、やがて地球を照らします。

あなたの一隅から世界を照らしましょう！一人ひとりが輝きあい、手をつなぐことができれば、みんなが幸せになり、すばらしい世界が生まれます。

■一隅を照らす運動の活動

1. 実践三つの柱

今、あなたのいる場所で身近なことから始めましょう。

一隅を照らす運動「実践三つの柱」

生命 いのち あらゆる生命を大切にしよう

奉仕 ほうし みんなのために行動しよう

共生 きょうせい 自然の恵みに感謝しよう

毎月四日は「一隅を照らす日」です。この「生命・奉仕・共生」という「実践三つの柱」を指針として、あなたも身近なことから始めましょう。実践活動を通じて、あなた自身が心豊かな人となることはもちろん、あなた自身が輝くことによって、あなたが周囲や家庭、そして社会を明るく照らします。

2. 地球救援〜あなたも参加しよう〜

一隅を照らす運動では、仏教の慈悲と「生命・奉仕・共生」の具体的活動として、様々な地球救援事業を展開して

います。あなたも参加してみませんか？

【緊急支援】

国内外の自然災害や紛争被災者や難民の救援。

【国内支援】

全国から寄せられた募金の一部を日本赤十字社やNHKなどへ寄託。

【海外支援】

タイのスラムに住む子どもたちの自立支援、インドの孤児院・学校への支援。また、タイとインドへ教育里親制度も設置。

【海外学校建設支援】

識字率の低いラオスに学校を寄贈するとともに、現地へ建設奉仕団も派遣。

【地球環境保全活動】

地域環境美化や地球温暖化防止のための植樹活動などを実施。

3. 大会・公開講座や研修会などの開催

公開講座や地方大会、研修会が全国各地で毎年開催されています。

また、一隅を照らす運動の最新ニュースはこちらからどうぞ。

4. 百万巻写経運動

『般若心経』を浄書してみませんか？ 一隅を照らす運動では、自己を見つめて心を磨くとともに、願いを込められる「お写経」をおすすめしています。

5. 一隅を照らす運動の組織

各支部（天台宗寺院）や、都道府県単位の教区本部で諸活動が実施されています。また、総本部は運動全体のとりにまとめ役です。

■一隅を照らす運動の会員を募集しています。

あなたも一隅を照らす運動に参加しませんか？ 一隅を照らす運動の総本部会員には、会報『きらめき』（年四回）や様々な行事の案内を送付させていただきます。また、年会費の一部を国内外の救援活動や地球環境保全活動に充てさせていただきます。

なお、天台宗寺院の檀信徒の方は各寺院（支部）へお問い合わせ下さい。

◎天台寺門宗

智証大師生誕一二〇〇年（二〇一四年）

◎高野山真言宗

高野山開創一二〇〇年記念（平成二十七年）

<http://www.koyasan.or.jp/feature/index.html>

「生かせ いのち 大師のみおしえ いま(り)ごと」

一二〇〇年記念大法会を奉修し、高野山開創の理念に基づき、祖廟中心の祖風を宣揚し、その教義を弘め、お大師さまの遺徳顕彰、無辺の誓願である令法久住利益人天のため、祖山の莊嚴事業、報恩伝道等の記念事業を執行していきます。

高野山開創一二〇〇年記念大法会記念事業

・奥之院周辺整備

- (1) 弘法大師御廟屋根檜皮葺替工事
- (2) 奥之院燈籠堂改修工事（平成二二年二月二八日完成）
- (3) 参道整備工事
- (4) 司馬遼太郎文学碑建立（平成二〇年九月二四日建立）

・伽藍周辺整備

- (1) 中門再建事業
- (2) 伽藍御供所改築工事（平成一八年一二月八日完成）
- (3) 勸学院整備工事（平成一九年三月三一日）

・その他

- (1) 高野山大学松下講堂黎明館建設工事（平成一八年一〇月一日完成）
- (2) 総本山金剛峯寺大主殿屋根檜皮葺替工事（平成一八年一二月八日完成）
- (3) 高野山大師教会大講堂改修工事
- (4) 各種の特別報恩伝道
- (5) 記念出版

◎真言宗智山派

「生きる力―安らかなる心で慈しみを」平成二二年四月より

この「生きる力」と「安らかなる心」を実感するために、「仏さまに祈る」を暮らしの中で実践する目標とする。

何を祈るのか？

それはあなたがかなえたいと思うこと、夢、何でもいいのです。

<http://www.chisan.or.jp/live.html>

◎真言宗醍醐寺派

聖宝理源大師一〇〇年御遠忌（平成二十一年）

平成六年（一九九四）一二月には「世界文化遺産」としてユネスコに登録され、「木の文化」「紙の文化」の世界的伝承の聖地となりました。

そして、平成二十一年には開山聖宝理源大師一千百年御遠忌を迎えます。

この法縁に、真言宗醍醐派・總本山醍醐寺は「祖山帰一」のもと総力を結集して、「開山理源大師一千百年御遠忌大法要」を執行いたします。

是非このご勝縁に、開山聖宝理源大師御遺徳莊嚴のため御信心皆々様の御参拝くださいますようご案内申し上げます。

http://www.daigoji.or.jp/special_news/shobol100_top.html

◎真言宗御室派

一味和合

手をつなごう

助けあい

語りあい

信じあう

我らみな 仏の子 (サイトトップページ)

◎浄土宗

宗祖法然上人八〇〇年大遠忌 (平成二三年)

「法然共生」(ほうねんともいき)

〈<http://www.jodo.or.jp/onki800/gaiyo/tomoki/index.html>〉

「浄土宗二一世紀劈頭」(へきとう) 宣言

浄土宗では二〇〇一年元日、世界の諸問題を解決する出発点、そして今後百年の指標として「浄土宗二一世紀劈頭

宣言」を世界に向けて発信しました。〈<http://www.jodo.or.jp/21th/index.html>〉

※法然上人の心を世界へ」と題し

愚者の自覚を (己を省みて、己のいたらなさを知ろう)

家庭にみ仏の光と (あたたかい家庭を築こう)

社会に慈しみを (優しさに満ちた社会を築こう)

世界に共生を (共に生きる平和な世界を築こう)

浄土宗二一世紀人権アピール

〈<http://www.jodo.or.jp/report/jinken/index.html>〉

◎浄土宗西山禅林寺派

宗祖法然上人八〇〇回大遠忌

<http://www.eikando.or.jp/daionki/index.htm>

総本山の営繕事業

阿弥陀堂の彩色復元

御影堂の瓦葺き替え

布教・教化・文化事業について

お待ち受け「特別法要・伝道」

今の社会情勢は目を覆いたくなくなることが数多くあります。今こそ一般の人々も僧も法然上人に向き合い、佛の慈悲・お念佛とともに生かされる喜びが「いのち」の輪として広がることを祈念して、特別法要・伝道を五年間に一〇〇カ所で実施します。この法要では、各地の檀信徒のみなさまを対象として、教宣部の研修成果を広く知っていたたく法話三座、在家勤行式をもとに研修を重ねた法事部の洗練され調和のとれたハーモニーの読経を通じて、他力易行の生きた念佛を会得していただくものです。

法然上人を歩く旅

大遠忌記念大会・琵琶による「法然上人物語」

法然上人の業績を顕彰し、全国の檀信徒のみなさまに念佛信仰の感動を輪を拡げる催しです。平成一九年度から毎年、各地で記念大会を開催いたします。内容は、特別法要・伝道に続いて琵琶語り・古屋和子さんの「法然上人物語」が演じられます。

写経「一枚起請文」

法然上人が建暦二年（一二二二年）に、門弟源智の願いにより浄土往生の要義を一枚の紙に和文で記されたのが「一枚起請文」です。短い文章ですが、専修念佛の要旨が簡潔に説かれています。

この「一枚起請文」を全国の檀信徒さんに写経していただいて本山に納めます。写経のための用紙（有料）は当派の寺院から皆さまに配布いたします。

法然上人への「絵手紙」

特に青少年の方に、八〇〇年前の法然上人に手紙を出すという仮想の中で、それぞれの未来への思いを手紙で語っていただく企画です。三回に分けて募集し、各回優秀作品を選定して入選者には賞品を贈呈いたします。

募集期間は下記の三回を予定しています。作品は事務局で受けつけます。

第一回 平成一九年一〇月～一二月

第二回 平成二〇年一〇月～一二月

第三回 平成二一年一〇月～一二月

第四回 平成二二年一〇月～一二月

◎融通念仏宗

開宗九〇〇年記念法要 再興大通上人三〇〇回御遠忌法要（平成二七年）

ひろげよう！ 融通念仏の輪

◎浄土真宗本願寺派

親鸞聖人七五〇回大遠忌

世のなか 安穏なれ

戦争への危機感やいのちの軽視、倫理観の欠如などに伴う出来事が相次ぐ現代社会にあって、私たち一人ひとりが自己中心のころを反省して、同じいのちを生きている相手の存在に気づくことが求められています。

自分一人を善として、相手を排除する考え方に真の安らぎはありません。善と悪に固執する偏見を破り、対立の構図を解消できるのは仏の智慧だけではありません。

聖人は、仏法がひろまり、世のなかが安穏であることを願われました。

そのおこころをいただいて、宗祖の七五〇回大遠忌を迎える今、スローガンといたしました。

宗門長期振興計画

「振興計画」の重点項目

その目標を具体化する施策として、

《親鸞聖人七五〇回大遠忌法要の修行と記念行事の推進》

① 法要の修行

② 記念行事等の推進

③ 協賛行事

《教学・伝道の振興》

④ 伝道態勢の整備

⑤ 時代に即応する教学の振興

⑥ 新たな門徒の誕生（教線の拡充）

⑦ 国際伝道の推進

《寺院活動の推進》

⑧ 寺院の活性化対策

⑨ 過疎・過密対策

《社会的活動の展開》

⑩ 地域社会との交流

⑪ 現代社会への貢献

《次代を担う「人」の育成》

⑫ 人材育成の新規対策

⑬ 既存の人材育成施策の強化

《宗務機能の整備・拡充》

⑭ 宗務機能の点検と拡充

⑮ 境内地等の整備

◎ 真宗大谷派

東本願寺では、二〇一一年にお迎えする宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌に向けて御遠忌テーマ「今、いのちがあなたを生きている」を発表いたしました。

このテーマは、閉塞感あふれる現代社会において、私たち一人ひとりに何を問いかけているのでしょうか。このページでは、これまで東本願寺から発信した御遠忌テーマに関する様々な内容を紹介していきます。

御遠忌テーマから呼びかけられているメッセージに共感された方々の声を紹介する中で、皆さんにとって、テーマ

との出遇いの場となることを願っています。

◎真宗仏光寺派

宗祖親鸞聖人七五〇回大遠忌に向けて「欲しいものが手に入る」ことが「幸せ」というここ半世紀にわたる風潮は、「健康で長生き」を理想とする人々を生み出してきました。「死なない命」も「患わない命」もありません。そのあたりまえの事実から目を反らしたとき、人は「自分の思い」を現実化しようとして、「思い」と「思い」をぶつけてしまいます。家庭や職場あるいは地域社会、いたるところで人間関係が崩れ、共通の価値観が失われるなかで、いのちの尊さまで見失われつつあります。

このような時代社会にあつて、「生き生きと生きる」「生きることには疲れない」という本願念仏のみ教えをお示し下さった親鸞さまの七五〇回目の法要を、九年後にお迎えすることの意味を確かめたいと思います。

本願念仏のみ教えは、貴族社会から武家社会へ時代が大きく変わるなかで、法然さまの仰せに頷いた親鸞さまによって開かれ、以後八〇〇年近くにわたって人々の心の支えとなってきました。それは本願念仏のみ教えが、生きることとの悲しみ苦しみを通して、いつでも・どこでも・だれにでも、生かされていた驚きと喜びを伝えたからでした。

お釈迦さまが「あらゆる人はその存在において尊い」と教えられたことが、「生きることの意味を問う」つまり「根本の願いに目覚める仏教」として、この鎌倉時代、日本の地に結実しました。

来る平成二三年にお迎えする親鸞さまの七五〇回大遠忌に向け、あらためて次の二つの点とともに確認して、念仏の流れに預かることを喜ぶものです。

一つには、この法要を契機として「存在（いのち）の尊さ」に目覚め、「較べる必要のない自分」に出会い、自分に充足できることであります。

二つには、それぞれがそれぞれ悩み苦しんでいるという事実に立った人間関係の回復であります。向き合う関係ではなく、生まれ、生き、死んでいくというように、同じ方向を持つ者としての人間関係の回復であります。

◎真宗興正寺派

宗祖親鸞聖人七五〇回大遠忌法要

○大遠忌について

―法要テーマ―「いのち・つながり・よろこび」

○法要テーマについて

―法要日程と各期テーマ―

第一期 「道を求めて」

平成二十三年四月二〇日（水）から四月二三日（土）まで

第二期 「響きあういのち」

平成二十三年五月二四日（火）から五月二六日（木）まで

第三期 「共に歩む」

平成二十三年一〇月二五日（火）から一〇月二八日（金）まで

第四期 「興隆正法く仏法ひろまれ」

平成二十三年一二月二五日（金）から一二月二八日（月）まで

―ご消息発布式―

平成一八年一二月二七日、日中の勤行終了後に宗祖親鸞聖人七五〇回大遠忌法要のご消息発布式が執り行われ、ご

門主よりご消息が發布されました。

―高札立札式―

ご消息発布式が行われた同日午後一時から、三門前にて高札立札式が執り行われ、ご門主・宗務総長・宗会議長によつて除幕が行われました。

―ご本尊動座法要―

平成二〇年四月一〇日、春の法要の朝座において、ご本尊を御影堂に仮安置する法要が厳修されました。↓詳細についてはこちら

―遷仏法要―

平成二一年四月八日、春の法要の朝座において、修復が完了した阿弥陀堂にご本尊をお移しする法要が厳修されました。

―ご消息披露―

平成一八年一二月二七日に發布されたご消息を全国のご門徒に披露・伝達するため、各地で「ご消息披露・伝達式」が行われます。

北海道教区 平成二〇年七月二二日に札幌別院において行われました。

大和教区 未定

阪神教区 平成一九年一二月一〇日に西善寺において行われました。

東讃教区 平成一九年六月一八日に高松別院において行われました。

西讃教区 平成一九年三月五日に郡家別院において行われました。

鹿児島教区 平成二〇年一月一二日に鹿児島別院において行われました。

◎真宗木辺派

親鸞聖人七百五十回御遠忌御消息

平成二十三年十一月二十八日は親鸞聖人の七百五十回忌にあたります。錦織寺ではお引き上げをして、このご法要を、平成二十二年十一月にお勤めすることになりました。記念すべきこのご法要では、親鸞聖人のお徳をたたえ、真宗のみ教えが正しく深く広く大きく伝わり、混迷の無明長夜の灯炬となるべく、高く掲げてまいりたいものであります。

親鸞聖人は比叡山で、永年ご勉学とご修業に勤められましたが、出離の思いは満たされず、苦しまれて諸方の靈窟に詣でられました。その中で、聖徳太子のお告げによって、源空聖人にお会いになり、阿弥陀如来の本願に抱かれて、いることを喜ぶお念仏をする身となりました。それ以来、法難によって流罪になった越後に、放免の後には関東にあつて、おみりの伝道にご尽力なさいました。晩年に京洛の地に戻られる途次、政情不安な都を前にして、木部の地にて『教行信証』のご浄書をなさりながら、しばらくご法義の広宣にお努めになりました。そのご縁が錦織寺となつて、親鸞聖人を御開山として尊敬して参りました。親鸞聖人はその後九十歳にてこの世の縁の尽きるまで、著述を重ねられ、そのみ教えは今日まで多くの方々に、仏縁を結ぶ働きとなり、喜ばれてまいりました。

仏教は、四諦八正道にまとめられるように、人間の迷いからの目覚めを促すものであります。それは今日においても人間の個々のあり方として、その輝きを失わない優れた教えであります。そしてさらに個々の人間の自覚は、他者に慈しみの目を向けるべきことに気づいていき、大乘仏教として今日まで広まってきております。

人の貪欲、瞋恚、愚痴に取り巻かれ執着している状態は、止まるところを知らず、今日では人間中心の思考がいっ

そう強まり、あらゆる方面において過剰な利潤と利権の追求がなされ、そこでは様々な生き物の命のつながりが絶たれ、地球の存続さえ危ぶまれる時代となりました。また科学技術の進歩は高度情報通信社会を生み出し、人々の結びつきをばらばらにして、孤独化を進行させています。それらは経典が五濁悪世と述べている姿でありましょう。

親鸞聖人によって開顕された浄土の真実のみ教えは、あらゆる人びとが阿弥陀如来の本願のお力でお浄土に生まれ、人の持つ迷いを離れて仏となり、この世に還っては迷える衆生をお浄土に導くために働くということであり、そして南無阿弥陀仏のお名号にこめられた、あらゆるものを救っていききたいという、阿弥陀如来の悲願を聞き尋ねていくことは、そのような願いを持った阿弥陀如来のお徳をたたえ、感謝と報恩の思いをもってお念仏することであり、それは同時に多くの命の中で存在する自らの生き方への目覚めであり、阿弥陀如来の智慧と慈悲に照らされて生きていく方があります。

七百五十回忌を迎えるに当たり、このお念仏の道を多くの方々と共に、静かに、心豊に歩みたいものがあります。宗門においては、親鸞聖人をお慕いして聴聞に努められ、愛山護法の思いを綴ってきた伝統を、未来へ伝えていく手立てを共に考えつつ、お念仏の相続に励んでいたいただきたいと念願いたします。

平成十七年十一月二十一日 錦織寺 門主 釈 円慈

◎真宗出雲路派

法要趣旨

平成二四年の春、親鸞聖人の七百五十回大遠忌が厳修されます。親鸞聖人によって開かれた浄土真宗は、あらゆる人々が阿弥陀如来の本願力に依って往生成仏し、この世に還って迷える者を救うために働くという教えであります。私たちの先人は、厳しい時代の中にも宗祖を敬慕し、聴聞に励まれ、愛山護法の思いとともに助け合って来られました。

た。この尊き良き伝統を正しく受け継ぎ、後世の人達にあやまつ事なく伝えていかなければなりません。

五十年に一度のこの遇い難き御勝縁に、聖人のご苦勞を偲びお徳を讃えると共に、浄土真宗のみ教えを深く受け止め、
混迷の時代を導く灯火として、広く伝わるよう努めたいと思います。

法要期間

平成二四年 四月二日(土) 二三日(日) 二三日(月)

基本理念

今回の御遠忌のテーマは、「ただ、唯念仏して」であります。南無阿弥陀仏の名号を聞信するところに往生が定まり、報恩感謝の思いから、如来のお徳を讃える称名念仏の日暮らしをさせていただくのです。

聖人は『生かされて生きる』ことの尊さ、ありがたさを身をもって体感しながら最後まで念仏を喜ばれてのご生涯でありました。聖人の常の仰せそのままの「ただ、唯念仏」の道を益々深めると共に、あらゆる時空を超えて現在の自分をあらしめている森羅万象に対して「勿体無い」の精神を心に刻みつつ、一山あげてお迎えしたいと存じます。

記念事業

仏恩報謝の誠を捧げた先人たちのご苦勞を無にすることなく、現在の「ほころびを お繕い」していくことが我々の務めであると考えます。

御影堂・阿弥陀堂― お厨子漆塗り、金箔の補修荘嚴等

御影堂門― 屋根瓦総葺き替え― 平成一九年六月完了

太鼓堂・会館・庫裡― 補修、改修

宗門活性化事業―

常用勤行集の改定 平成二〇年三月発行

門徒心得帖の刊行 平成一九年二月発刊―全門徒に配布

◎真宗誠照寺派

「念仏ひとつ―すくいのまんなか―」

真宗誠照寺派宗務長 茨田隆信

誠照寺派では、「親鸞聖人七五〇回御遠忌法要」を平成二三年（二〇一一年）五月三―五日にお迎えすることになりました。

このご法要は、五〇年ごとに厳修され、聖人のご威徳を偲ぶとともに、み教えにめぐりあえたことをよろこびあう大切な節目の行事であります。

ご法要をお迎えするにあたり当派では、「念仏ひとつ―すくいのまんなか―」をテーマとして掲げました。

昨今の混迷する社会において、今こそ親鸞聖人のみ教えをよろこびあうことを柱とする生き方を一歩一歩確実にすすめておく存じております。

私たちはこの御遠忌をよきご縁として、お念仏の教えをしっかりと受け止め、すくわれていることを味わいながら、僧侶と門徒が一つになって、連綿として受け継がれてきた浄土真宗の正しい法灯を子々孫々にまで伝えなければなりません。

合掌

◎浄土真宗東本願寺派

親鸞聖人七五〇回御遠忌「本願は未来をひらく」（平成二三年）

平成二二年スローガン「聖人にあえるしあわせ

◎曹洞宗

《平成二二年度 布教教化方針》

曹洞宗の布教教化は、一仏両祖の生き方を慕い、自己自身にそのみ教えを実現することを誓い、多くの人々と共に生きることを目指します。それは常に社会の苦を己のこととして考え、社会の苦に寄り添う仏教者の生き方を願うものです。

現代は自我の肥大と、人との絆を見失った結果、孤立を深め、いのちの尊さや人間関係の大切さを忘れかけています。このような社会であるからこそ、宗門として、また仏教者として「菩薩の実践行である四摂法（布施・愛語・利行・同事）」を実践してまいります。現代ほど寺院の使命や新たな役割が望まれている時代はないからです。

また、亡き人々や先祖を慕う心、その発露である供養を、かけがえない絆として大切にしてまいります。

そして、教化施策の柱である「人権の尊重・平和の確立・環境の保全」の展開をすすめる、本年度も「愛語」の実践を通して、「み仏の絆」を深め、次のように布教教化方針を定めます。

1、「南無釈迦牟尼仏」のお唱えの普及に努めます。

私たちは、常に「南無釈迦牟尼仏」とお唱えし、仏の教えを灯火（ともしび）として、坐禅に親しみます。

2、あらゆる差別の撤廃と人権啓発の活動に取り組みます。

私たちは、仏教の慈悲の原意にたちかえり、社会の中で抑圧され排除されている全ての人々の苦しみ、悲しみを共有し、差別撤廃のために歩んでいきます。

3、共に喜びを分かち合える平和な社会の実現を目指します。

私たちは、過去のあやまちと戦争の惨禍を直視し、不戦を誓います。全世界の安心と平和な社会を実現するため、相互理解と協調による道を共に歩みます。

4、大いなる自然に生かされていることを思い、「地球環境をまもる全曹洞宗の運動」（グリーン・プラン）を継続していきます。

私たちは、自らが大自然とひとつであることを深く自覚し、未来の地球の姿に思いをいたし、身近なところから、環境に配慮した生活を実践していきます。

5、人々の出会いの中で、相手を思いやる菩薩行を実践していきます。

私たちは、他者の心の安らぎを自らの心の安らぎとして共に歩みます。苦難の中にいる人々に寄り添い、ボランティア活動など見返りを求めない積極的な菩薩行を、身近なところから始めます。

6、寺院を地域社会の「絆を再生する場」に活かします。

私たちは、地域社会に積極的にはたらきかけ、寺院を広く開放し、人々との様々な縁を大切にし、信仰生活を柱とする絆をつくっていきます。

◎一畑薬師教団

開基補然大和尚千百年遠忌大法要

（平成二四年 開基補然大和尚様の千百年の報恩大法要を厳修します）

平成二四年は、一畑薬師の開基・補然大和尚没後千百年の正当にあたります。補然和尚は俗名を与市といつて、日本海の赤浦より薬師如来をすくい上げてこの地に祀り、後に出家をして名を補然と改め初代の住職とられました。

創開されてより今日まで、一畑薬師如来のもとに多くの人々が帰依参拝し身心を救済されてきましたこの法縁は、ひとえに補然大和尚の大慈大悲のご高德に始まるものであります。平成二四年、報恩謝徳と仏法興隆の念のもとに「開基補然大和尚千百年遠忌報恩大法要」を厳修いたすことに相成りました。

この混迷の時代にあつて、一人でも多くの人々に仏縁が結ばれ、薬師如来の正しい御教えを受けられますことを懇願いたします。また、将来にわたつて人々の心の道場、癒しの霊場となるべく、また皆様に安心して参拝していただくことのできる境内環境を整備していく所存でございます。皆様方におかれましては、どうか今後とも何かとご支援を賜りますようお願いを申し上げます。

合掌

一畑薬師管長 飯塚大幸 謹白

D その他

◎念法眞教

立教八五年祭 平成二二年四月一日～平成二三年三月三十一日

四月一日(木) 開闢法要

八月一日(日)～三日(火) 立教八五年祭報恩大法要

八月一日(日) 全国念法青少年が迎える立教祭。

青少年による報恩大法要の他、様々な研修会や交流会を開催。

八月二日(月) 地元大阪の本山教区信徒による立教祭。

報恩大法要には宗教界をはじめ各界からのご来賓をお招き。

八月三日(火) 全国支院代表者による立教祭。

廿五菩薩お練り供養稚児行列の他、報恩大法要、護摩供を奉修。

九月九日(木) 開祖生誕一二五年祭

平成二三年三月一五日(火) 春の祭典

平成二三年三月三十一日（木） 結願法要

五月一日（平成二三年三月三十一日）

立教八五年祭記念パネル展「親先生と歩んだ八五年（念法眞教八五年祭・笑顔の写真展）」

その他ブロック大会、全国支院大会あり

◎中山身語正宗（眞言系）

本宗の最高目標は、「宗祖のご本願」の成就。つまり自らの救われにとどまらず、「世界の平和と万民の幸せ」を願うみ仏のこころを自らの願いとして精進努力していくことにあります。

そのため本宗の社会活動は、「宗祖の三教」に代表される「慈」と「悲」の行という本宗の教えに根ざしたものに なっています。つまり、手助けを必要とする人たちに必要なものをさしあげるのももちろんですが、その場限りで終 わるような支援ではなく、そのような人たちが自立していけるような支援をめざしています。

そして、支援した者も人々の手助けができたことを喜び、自他共に「すばらしい人間に成長する」ことを目指して いるのです。

その社会活動は、個人、末寺単位、あるいは宗団として、家庭や学校、職場という身近な所から、地域社会、ひい ては世界の国々までと広い範囲で行われています。

立教百周年記念法要（平成二三年）

記念事業

「大本堂改修」

昭和二九年に建立された十六間四面の大本堂は、中山身語正宗の根本道場として建立され、今日まで多くのお同行

様の心のより所となってきました。

建立当時、戦後西日本一の本格木造建築と賞賛され落慶された大本堂でしたが、建立から五〇年あまりが経過し老朽化が目立つようになったため、大規模な改修が行われることになりました。

「古四国行場の整備」

古四国八十八カ所は、「世に埋もれし古仏を拾い上げ、筑肥の間に古四国八十八カ所を開け」との（おじひ）（仏告）を、宗祖上人がみ仏より授けられたことにより開創されました。

立教当時より巡拝されてきた古四国を、これからも私たちの大切なお行場として持ち届けていくために整備されることになりました。

「大本山施設のリニューアル」

大本山の境内の荘厳を維持し、参拝者の利便性や快適性の向上、そして更に、お行に専念していただける環境整備のために、現在大本山境内の様々な施設や堂塔のリニューアル工事が行われています。

■主なりリニューアル

信徒会館（改築）／勸学院、護摩堂（改築）／奥之院（燈籠堂、御影堂、合祀塔）

五重宝塔、鐘楼堂 など

◎真如苑

「社会の中に活現する」

立教以来、真如苑では、宗教活動のみならず、広く社会貢献活動を行ってきました。記録をひもどくと、一九四八年、福井で起きた大地震で救援ボランティアとして参加、街頭募金を実施して届けたことが記されています。

また、社会の求めに応える活動をめざし、一九七〇年より公共エリアの清掃活動を開始、一九八七年以降は、さまざまな専門分野を担う財団やボランティア団体を設立し、現地に根づいて活動する方々と協力しながら、多角的な活動を展開しています。

「ともに喜び、ともに悲しむ」

「その時代その世代の人々と共に求め行じてゆく」と、かつて真乗は記しています。それぞれの時、人々、状況に即応し、その求めに応じて、そこで必要とされているものが何か、検討しながら、活動を進めています。

經典には、人とともに喜び、ともに悲しむ菩薩の心が示されています。それをわずかずつでも活現していくことが、真如苑の願いです。

二〇〇六・三・二五

開祖生誕一〇〇年を記念し、応現院落慶。

二〇〇六・八・二〇

開祖生誕一〇〇年を記念し、開祖の作品を紹介する『伊藤真乗の目と手』展を開催。東京など全国五都市を巡回。

◎辯天宗

宗祖智辯は、昭和九年四月一七日、大辯才天女尊より天啓を享け、その御神示に従って、あまねく一切の救いを自己の誓願とされ、

真心を常に忘るべからず

慈悲愍みの心を養うべし

善根功德の行を積むべし

感謝の誠を捧ぐべし

不平不満を想うべからず

と救いの道をやさしく表した宗祖「五行のお諭し」をもって、信者の道しるべとされました。私たち一人ひとりがこの「五行のお諭し」を自分のものとするとき、あらゆる福徳が成就され、人も自分も救われるのです。

平成一四年（九月一三日）

宗教法人「辯天宗」規則が文部科学大臣より認証。

平成一四年（九月二五日）

宗教法人「辯天宗」設立登記。

平成一四年（一〇月二日～一四日）

立宗五〇年記念秋季大祭執行。寛祥得度。「辯天宗宗憲」公布。大和本部は総本山如意寺、大阪本部は冥應寺、東京本部は東京別院に名称を変更。

◎阿含宗

阿含宗の目指すもの

桐山管長の、世界平和への指向には、なみなみならぬものがあります。

桐山管長は、三歳の時に関東大震災に遭って、朝鮮人虐殺を目撃しました。その時の痛烈な衝撃は、その性格・思想の形成に甚大な影響を与えました。さらに太平洋戦争に遭い、戦争のもたらす悲惨な体験を重ねました。

何よりもまず平和を！

これが管長猥下の心の底からの叫びです。

一九七七年四月、パラオ島において南太平洋戦没者・殉難者（じゅんなん）の法要を、同年五月、沖縄において戦争犠牲者の法要をいとなみ、一九八四年五月、東京・日本武道館において、チベットの第十四世ダライ・ラマ法王殿下と世界平和祈念大法要（オーラの祭典）開催。一九八六年六月、中国ハルビン市において日中友好・世界平和祈願の法要。さらに、一九八五年四月、バチカンを訪問して、ローマ教皇聖下との会談、カソリックとの合同法要。一九八八年二月、イスラム教のネムル法王殿下を京都にお招きして、世界平和・宗教フォーラムの開催。このように、すべて、その熱烈な世界平和への願いから発しているのです。

桐山管長は、こう考えます。

ほんとうの世界平和実現は、宗教が核となって推進しなければならぬ、と。

では、どんな宗教が、いま必要なのか？

それは、これまでのように、「愛」（キリスト教）と、「慈悲」（仏教）を説く、情に訴えるだけの宗教では、これらの社会は救えない。知能を高めるシステムを持つ「智慧の宗教」でなければ、破局へとつき進むこの地球を救うことはできないと、桐山管長は言うのです。

愛と、慈悲と、智慧と、これこそが人類を救う三位一体なのだ、と桐山管長は世界に向かって問いかけているのです。

◎黒住教

平成一二年（二〇〇〇年） 七代宗道、副教主に就任 教祖神百五十年大祭斎行

平成一三年（二〇〇一年） 私達の教会所における「教祖神百五十年大祭」斎行

（平成一六年まで）

平成一四年(二〇〇二年) 神楽岡・宗忠神社鎮座一四〇年記念祝祭齋行

平成一五年(二〇〇三年) 五代教主三十年祭齋行

平成一六年(二〇〇四年) 立教一九〇年、神道山ご遷座三〇年記念祝祭齋行

平成一七年(二〇〇五年) 大元・宗忠神社ご鎮座一二〇年記念祝祭齋行

平成二四年(二〇一二年) 神楽岡・宗忠神社ご鎮座一五〇年記念祝祭齋行

平成二六年(二〇一四年) 立教二〇〇年祝祭齋行

◎金光教

平成一二年(二〇〇〇年) 六月一〇日、一日の二回にわたり、教団独立百年記念祭を執行

平成一五年(二〇〇三年) 九月二八日から五回にわたり、教祖百二十年生神金光大神大祭を執行

◎大本

人類愛善運動

国内宣教・信徒倍增計画の推進

開教百二十年記念事業について

1 (聖地建設) 梅松苑

○みろく殿の改修

祖霊社を現在のご肖像の間に移設

教主室を新祖霊社奥に新設

神饌室及び祭員控室を改修

祖霊社移設後、万霊社を新設

多目的に使用する二階部屋を増築

トイレの全面改修

高齢者、身障者のためみろく殿玄関に手すり設置。松香館側からみろく殿エレベーターへの通路を検討

○歴史資料館の建設（土地取得を含む）

○人型受付としての博約館増築

○新霊祭祀殿として斎納社の建て替え

○大本はたば（つる山織工房）の移設

寮芸道場（鶴山工房）と一体化、芸術エリアに

○金竜海整備

大和島築造（平成一七年一月六日完成）

みろく橋建設（ 〃 〃 ）

杳島冠島神社の御宮改築

○神苑整備（身障者に配慮した神苑づくり）

2（聖地建設）天 恩 郷

○老朽化した第一安生館、第二安生館、大本会館を建替え。

○大道場講堂の建設

平家建（高さ一〇m）一〇〇〇㎡（約三〇〇坪）。現在の大本会館の位置に建設、

泰安居の姿と瑞泉苑玉水殿（事件前）の建物を参考

世界にみ教えを発信する中心地。大道場修行機能の充実整備。

○新大本会館の建設

三階建（高さ一七m）六七〇〇㎡（約二〇〇〇坪）。第三安生館と大道場講堂の間に建設。屋根は鶴亀殿の落棟と桂離宮の入母屋比率を参考

一階…食堂、受付ロビー機能（ゆったりくつろげる空間に）

二階…宿泊室（天恩郷ではじめてトイレ完備の洋室を配置。新大本会館での宿泊数約三〇〇人）会議室（大中小の会議室を配置。通訳施設を検討）事務所（大部屋に集中的にまとめて配置。地階を倉庫に利用）

三階…多目的ホール（約三〇〇人収容。椅子席は階段式で壁面に収納できる稼動タイプ。対社会緊急避難施設、また臨時宿舎にもなる）事務所、地階を利用した倉庫

○瑞月舎：新大本会館とつなげ、接遇の和室館として再活用

○宿泊棟の建設

四階建三四〇〇㎡（約一〇〇〇坪）。現在の愛善みずほ会館の位置に建設予定。四〇〇〜五〇〇名宿泊。

一階…信徒だけでなく外部の人もお迎えできる多目的ホール（充実した葬祭等を行う）

二階以上…全国からの来苑者、団体参拝者を受け入れる宿舎。信徒が自由に安らげる会館に。教区毎の部屋を設置し、他教区との交流の場にも。エレベータ完備。レストランを設備。

○教主公邸の整備（現在の梅松館を教主公邸として整備）

○洗心亭（浴場）建設（平成一六年完成）

○駐車場の取得

- 農地の取得
 - 万葉舎の建替え（植物標本展示・保管庫の建設）
 - 高熊山、瑞泉苑整備
 - 神苑整備（身障者に配慮した神苑づくり）
 - 宣霊社を出たところをエスペラント広場に
 - 洗心池を拡大する
 - 天声社移設を検討
- 3 （東京本部）東京本部の建替え
- 東京本部は老朽化が進み、首都直下型地震に耐えられないとの専門家の指摘
 - 七階建三四〇〇㎡（約一〇〇〇坪）
 - 神殿棟は高さ三階まで。御神前一七〇畳。能舞台を設置（従来のを移設）
 - 事務棟は高さ七階まで可能。教主室、事務所、宿泊、職員寮を完備
- 東京本部の役割
- 首都圏における「神の家」（靈魂の憩いの場）
 - 首都圏宣教の中枢府（情報収集発信の地場）
 - 国際・宗際交流の窓口（海外交流の門戸）
- 建て替えのコンセプト
- 参拝がしやすい。自然災害への耐性。事件、事故から守られる安全性。
- 4 教典・教書の整備（教典等刊行、大本二二〇年史、資料収集）

○新抄『大本神諭』の編纂、刊行

一般対象にわかりやすく一冊にまとめる。エスペラント訳をし各国語に訳して世界に出版する。

○新抄『霊界物語』の編纂、刊行

一般対象にわかりやすく数冊にまとめる。エスペラント訳をし各国語に訳して世界に出版する。

上記二件に付録として拝読のしおり、用語集をつける。

○教義解説書『大本の教え』の改訂刊行

エスペラント訳をし、各国語に訳して世界に出版する。大本のみ教えを映像で紹介、ビデオ制作。

○絶版あるいは未公刊の教典・教説書類の完備（「経歴の神諭」「聖師歌集」など）

○教御祖様の伝記刊行、アニメ化、コミック化

○『新修大本百二十年史』の編纂、刊行

上下二巻、各一〇〇〇頁、六〇年ごとに整理。平成二四年刊行予定

○大本資料の集成

5 人材養成

○梅松塾研修センター（仮称）の建設、開設

設立目的…教団の人材養成をはかる

研修科内容…教養学科（梅松塾生）と専門学科（選択制、信徒も参加できる）

多様な研修科目を設け、参加しやすいプログラムと日程を検討。

五階建三〇〇〇㎡（約九〇〇坪）。現在の青年会館と梅松塾までの間に建設。宿泊施設、多目的ホールも備える。

環境エネルギー問題を考慮し、屋根はソーラーシステムを設置

○武道場（新鳳雛館）の建設

現在の鳳雛館が老朽著しく撤去。梅松塾研修センター横に建設

6 特別宣教

○国内宣教・信徒倍增計画の推進

○海外宣教・エルサレムにおける歌祭の推進

◎白光真宏会

個人と人類を幸せに導くための活動

1 祈り、印、マンダラの普及活動

・祈り（世界平和の祈り）

・印（我即神也の印、人類即神也の印）

・マンダラ（宇宙神マンダラ・地球世界感謝マンダラ・光明思想マンダラ）

という三つの方法を、国内はもとより海外に普及しています。

そのために、各地でボランティアによる各種のワークショップが開かれています。

2 一〇万人の神人づくりの推進

本会では、宇宙神マンダラの作成をはじめとする、神人養成課題を修了した人々を、「神人」と称しています。
神人が増えることによって、地球上に光明波動が広がり、完全なる平和が近づきます。

この神人を一〇万人創るために、各地で講習会（宇宙神マンダラ刻印式）を開いています。

神人養成プロジェクトについて

一九九九年より「神人養成プロジェクト」が始まりました。

神人とは、真理に目覚めた人（自分も人も本質は神であると自覚し、愛そのものの、調和そのものの想念行為の出来る人、または、そうなるよう努めている人）であり、また、宇宙神の光を自らの身体に受け、地球上に放つことが出来る人です。

現在の地球は、急速に、次元が上昇しつづけ、物質文明から精神文明への過渡期にある、と言われています。宇宙神の計画では、神人が一〇万人に達すると、さらに強力な光を地球世界に流入させることができ、人類が真理に目覚めはじめ、やがて、この地球上に完全なる平和世界が樹立される、ということです。

このプロジェクトの目的は、神人を一〇万人つくることにあります。

神人になるために

我即神也の印、人類即神也の印を組める方が対象となっています。

次の三つの課題（神人養成課題）を達成すると、神人と認定されます。

1 宇宙神マンダラの作成

二枚のマンダラ用紙の一枚に「我即神也」の文字を、もう一枚に「人類即神也」の文字を、それぞれ一〇五周、息を止めて書きます。

2 人類即神也の謹書

「人類即神也」の宣言文を唱え、印を組んだあと、「人類即神也」の五文字を約一分間、息を止めている間に七回、謹書する。これを一〇〇セット行なう。

3 人類即神也の宣言

七万人に対して「人類即神也」の五文字を宣言する。

◎世界救世教いづめの教団

人類は、物質文明の長期にわたる発展にともなつて、宇宙の律法であり、神の意志であり、真理である大自然の法則から徐々に離れてきました。見えないものは信じない唯物主義と、他の迷惑を省みない利己主義（エゴイズム）によつて、この法則から遠ざかつてきたのです。

人間は、はかり知れない欲望の虜とらになつて、地球生態系の破壊や際限のない紛争など、数知れない不幸な問題をこの世に作り出してしまいました。大自然の法則から逸脱いつだつすることによつて、現代人の生活に密接に関わる自然環境・健康・農業・医学・教育・芸術・政治・工業等々、あらゆる分野に思いもよらぬ悪影響が現れてしまいました。

それは既に限界に達し、この状態が続けば、地球の生態系は無惨に破壊され、人類は滅亡の運命をたどる以外にありません。

この悲惨な現実に人類を目覚めさせ、解決の方途を示すために、岡田茂吉師（一八八二～一九五五）は一九三五年に世界救世教を創立しました。

その思想の核心をなすものは、唯物主義と利己主義を正し、目に見えない世界の実在を知らせ、人間にも動物にも植物にも生きとし生けるものすべてに霊いのちがあり生命があることを教え、人類を大自然の法則のもとに立ち返らせ、宇宙の律法・神の意志に適った生活に教導し、真善美・健富和の理想世界を実現することです。

私たちは今、浄霊を取り次ぎ、自然農法を普及し、華道を広め、MOA美術館を中心にした芸術活動に励んでいます。こうした活動はいずれも岡田師の救世思想に基づく実践的な取り組みに他なりません。

このように、唯物主義を唯心主義に、自己愛を利他愛に変えて、大自然の法則に調和した生活をし、この地上に理想世界のモデルをつくり、真の文明を創造していくこと、これが私たちの使命です。

◎世界真光文明教団

主の神様は幾億万年にわたる神経統編（Ⅱご計画）の成就のために、過去の宗教では、聖雄聖者や一部の弟子たちになんか許されなかった神業である「真光の業」と天界の秘め事である「神理正法の教え」を降ろし、師を通して万人に広く与えられたのです。

この「真光の業」と「神理正法の教え」の実践によって、あらゆる面で行き詰まっている人類界に本当の生き方を示し、一人でも多く救うことが教団の使命です。このみ教えとみ業は、希望するものには人種国籍、宗門宗派、老若男女を問わず授けられ、その救いの輪は、スピリチュアルボランティア活動として、全世界に広がっています。

平成一一年八月一日 感謝と愛の祈りを主神に捧げ、人類の方向を破滅から救済に大転換する人類祭を、本殿前広場で執り行う。（立教四〇周年大祭）

平成一六年八月一日 「人類歴史の夜明け」「宗教ルネッサンスの大機」となる大祭を、本殿前広場で執り行う。（立教四五周年大祭）

平成二二年八月二日 「光を世界へ。夢を未来へ。天意を人類へ。」の祈りのもと、立教五〇年の節目を期して、世界に向けてさらに大きく前進することを決意する祭典を、本殿前広場で執り行う。（立教五〇周年大祭）

「本殿が建立されてから二〇〇年が経つため立教五〇周年大祭に向けて主座二〇周年修宮を行う計画が出された。二〇〇九年八月二日には立教五〇周年大祭が予定されている。また、主座二〇周年修宮の一環として陽光会館横のテニスコート跡地に青年育成のための錬成館を建立する計画が出され、二〇〇九年六月に竣工した。」

その他

http://www.chugainipoh.co.jp/NEWWEB/n-news/09/news0908/news090811/news090811_03.html

◎崇教真光

本教団の基本理念は、天地創造の主神（めじがみ）への神向き信仰のもと、「地球は元一つ、世界は元一つ、人類は元一つ、万教の元又一つ」であります。

崇教真光の神向き信仰のあり方は信仰を日々の生活と切り離して考えるのではなく、信仰（神向）そのものが神に近づく生活です。つまり、個人個人が崩れる事のない幸福を得るための努力をすることが神向き信仰の基本なのです。

〈幸福〉の定義づけにもいろいろありましようが、教団では次の三つを〈幸福の三原則〉とっております。

健……病気をしないからだ

和……争う心のおきない

富……貧しさからの脱出

この健・和・富三拍子を得るための、霊術が〈真光（まひかり）の業（わざ）〉であります。（詳しくは別項にて説明）

真光の業を受け、施すことにより魂霊の世界が向上し、人々は心もからだも浄められ愛和の家庭、災害・事故の少ない地域社会、戦争のない平和な世界を築き上げることが可能です。

今後人類は、更に唯物科学を發展させて行くことでしょう。しかしそれら科学を使いこなす人々の想念によって建設の科学にもなり、また、破壊の科学にもつながってまいります。

善想念の人類を一人でも多くお育てさせていただき、輝かしい天国文明づくりに邁進しております。

そして宗門宗派にとらわれない、宗教を越えた『崇教』として、すべての人々、すべての国々が連帯し協力することが可能となると信じて努力しております。

「陽光文明構想」

初代教え主・岡田光玉師は、立教当時（昭和三四年）、物質中心に偏る人類の未来をお憂いになり、人類悠久繁栄

のため「地球は元一つ、世界は元一つ、人類は元一つ、万教の元又一つ」の理念に基づいた「陽光文明構想」を打ち出されました。

そのご構想実現に向かって、

①宗門宗派、人種、国境の区別を超越した「十字の広場」としての「陽光文明会議」の開催
②新しい農業の確立としての「陽光農園」の推進

③霊主の医学を推進する陽光健康センター構想の一環としての「陽光診療所」の開設と、次々と歩みを進めております。

平成一六年一月 御立教四五周年大祭

平成二一年一月 御立教五〇周年大祭

◎天理教

二〇〇六年一月二六日 教祖百二十年祭

教祖百二十年祭は来年一月二十六日に執行されるが、併せて一年間を「教祖百二十年祭の年」として、毎月二十三日の祭典（秋季大祭をのぞく）を、正月二十六日の理を受けて、勤められる旨発表されている。これを受けて、教祖百二十年祭催事企画委員会（委員長 〓松田元雄本部長）は秋季大祭後に開かれた「かなめ会」の席上で、年祭の年の一年間を通して親里で実施する催事について企画の大枠を発表した。なお今回は、年祭前後の催事についてはふれない。

催事企画の基本コンセプトは、教祖のお言葉に基づいて、帰ってこられる方々に「おぢばえりの楽しさ」や「喜び」を味わってもらう一助としようというもの。このため主な対象層を初めておぢば帰りする人、および入信して日

の浅い人々とし、家族連れでの帰参も視野に入れている。

そこで、大人数が集まるイベントというのではなく、それぞれの信者詰所が本来もっている可能性を最大限に生かすことを提案。年祭後をも見据えて、各直属教会が独自性を発揮し、喜びや楽しさを共有する中から、教会としての一体感を醸成することも企画に盛り込んでいる。

つまり、詰所は本来、帰参者がわが家のように手足を伸ばしてくつろぐ「母屋」であると同時に、共に信仰を求め、深める「信者修煉所」である点に着目。導いた人、そして同じ教会につながる教友が共に睦み合い、喜びを共有することによって、次への成人につなげてほしいとの思いが込められている。

具体的にはまず、ケーブルテレビを活用し、年間を通して、詰所にさまざまな映像を配信する。現在のところ、毎月二十五～二十七日と教祖誕生祭前後、および土・日・祝日の配信を予定している。

内容は、親里での各種イベントの中継、神苑周辺などの風景、道友社スタジオからの放送など、その時点でのリアルタイムの情報や映像を配信。さらに、道友社が保有する過去の年祭の記録映像や「先人シリーズ」、「憩いの家」事情部の番組、教理勉強、「親里の四季」など、親里の様子や本教の活動、教えなどをより深く学べるものも用意する予定で、共に画面を見ながら語り合えるような場面が生まれることを期待している。

また、詰所における直属教会での取り組みを支援するために、講演講師や演奏家、芸能人などを、希望に応じて詰所に派遣することも検討されている。

年内に完成予定の「おやさとやかた南右第二棟」は教化育成面での活用が予定されているが、その最初のものとして、展示館およびイベント開催に活用される。

具体的には地下二階は親神様の懐住まいの喜びを実現した『をやの御守護』の映像展示。地下一階は、教理説明や教祖ひながたの道についての展示。一階には、本教の活動紹介のほか親里案内と休憩所が設けられ、基礎講座の受付

と事務所も設置される。

二階では基礎講座を開講。研修室などが設けられる三階では、年祭回顧や海外布教伝道関連の資料が展示されることになっている。そして四、五階を占める三百七十人収容のホールでは、記念講演やシンポジウム、演奏会が開かれる予定。ホールでの催事の模様は、前述の通り、ケーブルを介して各話所に配信することになっている。

子供連れでの帰参者のために「おやさど広場（仮称）」も開催する予定。開かれるのは、二月から十二月までの第一、二、三日曜と連休。

場所は神苑周辺を予定。現在、子供から大人まで楽しむことができ、おちばがえりの意義と楽しさを味わってもらえるものをと、鋭意、準備が進められている。【天理時報二月十三日号より掲載】

http://shimbun.tenrikyo.com.br/index.php?option=com_content&task=view&id=25&Itemid=82

◎パーフェクトリバティ教団（PL）

二〇〇〇年（平成一二年） 四月 第二代教祖生誕百年祭式典

<http://www.perfect-liberty.or.jp/100/100c.html>

<http://www.perfect-liberty.or.jp/100/100bah.html>

◎円応教

昭和四五年一〇月六日 本殿落成（立教五〇周年記念）

昭和六一年七月一三日 五法閣落成（教祖生誕百年祭記念）

平成一一年七月一六日 立教八〇周年

◎GLA

二〇〇九年、GLAは創立四〇周年を迎えます。

一人ひとりが内なる「菩提心」に目覚めてゆくこと——。それは間違いなく、時代の困窮に道をつけ、真の幸せと希望をもたらし、「新たな時代」を切り開いてゆきます。GLAは、創立四〇周年を機に、誰もが「菩提心」を生きることができる道を、より一層広く社会に提案してゆきます。（サイトより）

むすびにかえて

最近、インターネット上で注目を集めている日蓮宗寺院が二つある。YouTubeなどで大変な注目を集めた本光寺、八王子の「萌え寺」こと了法寺である。この両寺院のアプローチには当然賛否両論があろう。むしろ、「良心的」な僧侶であればあるほど、眉を顰めているような気もする。

しかし、保守的で古くさいと思われる寺院が、ここまで門戸を広げ、一般民衆に寄り添おうとしている姿勢については大いに評価すべきではないかと個人的には思う。

「宗門運動」の「運動」は、英訳するとすれば、campaign（キャンペーン＝社会上・政治上の目的をもつ組織的な闘争や運動。ある特定の問題についての啓蒙宣伝活動。）ということになるであろうし、「立正安国・お題目結縁運動」に於いても、対社会に向けて、未信徒を対象としての活動こそが中心であると位置づけられている。

しかしながら、実際の現場はどうかという点、概ね記念法要、記念団参、記念事業としての建築・普請、研修会といったところであり、「既信徒」の動員に終始している感が否めないところである。

果たして、我が宗門の宗門運動は、文字通りcampaignとなって行き、一般社会に向かっていけるのかどうか。そのヒントはこの二つの寺院の取り組みの姿勢にもあるのではないだろうか。

もう一つ、伝統教団の近年の注目すべき動向として、曹洞宗の「住職学」の提唱を挙げておきたい。

これは、教師一人ひとりが檀信徒一人ひとりに向き合うことを勧奨する、大教団である曹洞宗の、教団をあげての運動である。従来の法要や説教、教学、回向引導といった内容の講習から一歩踏み込み、相談業務を住職の重要な法務と位置づけて、各地で講習を行い、涵養しているのである。

ひとりの僧侶がひとりの檀信徒に寄り添う。悩みや相談を聞き、今風に言えば、或る種の「癒し」を提供出来るようにするのが、住職としての要件であると位置づけるのである。決して派手なものではないが、宗門の運動として一つの方向性を示しているのではないだろうか。